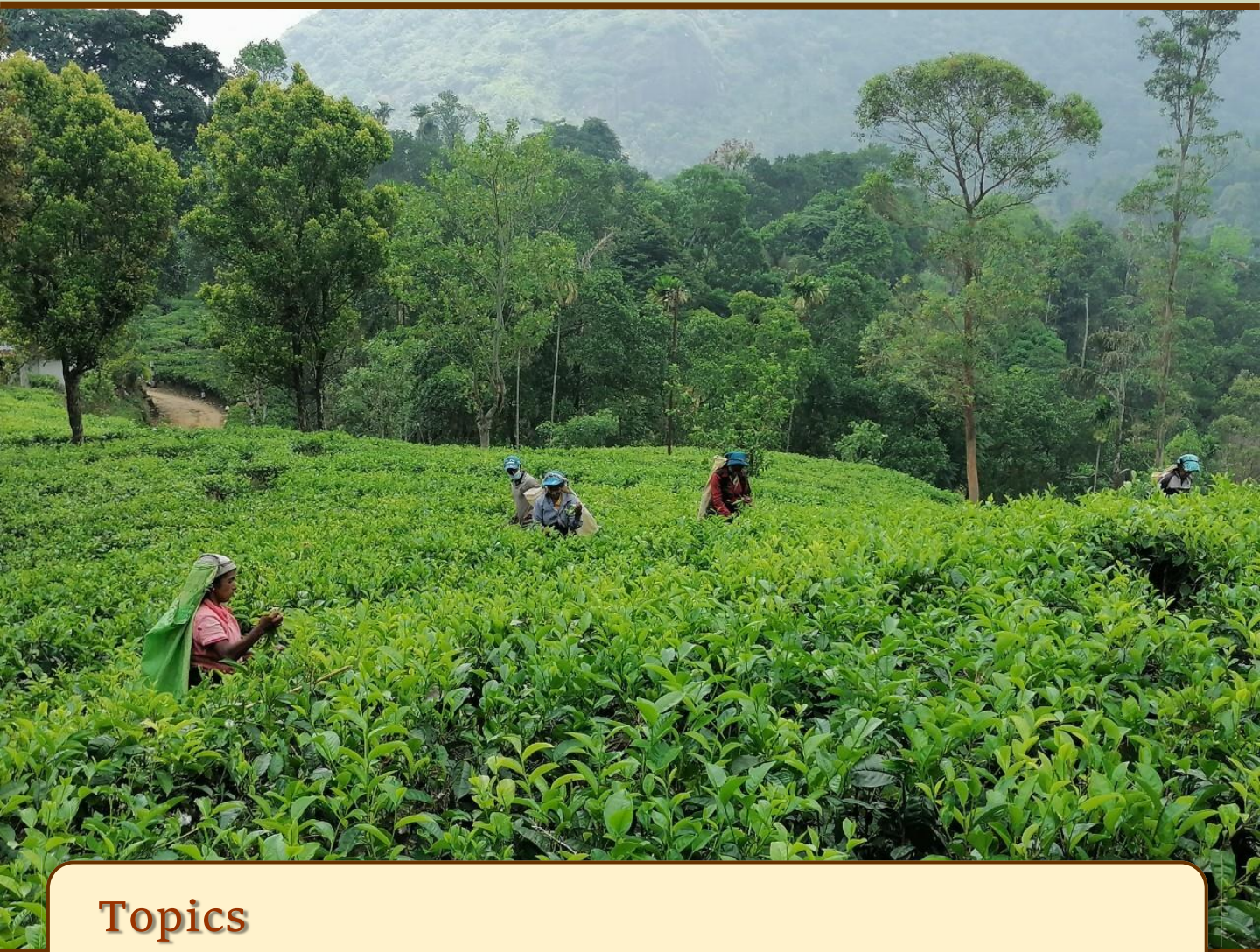


JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

表紙：スリランカ_ヌワラエリヤの茶畑



Topics

JDSキルギス 帰国留学生が、教育・科学省副大臣に就任しました！

- ▶ JDSモンゴル帰国留学生が最高裁判所裁判官に就任しました
- ▶ セネガルから第1期生5名が来日しました
- ▶ ほっとひと息： バングラデシュ



JDSキルギス 帰国留学生が、教育・科学省副大臣に就任しました！



Mr. Supanaliev Bekjan
(スパナリエフ・ベクジャン)

明治大学ガバナンス研究科 2014年修了
キルギス共和国 教育・科学省副大臣

2023年6月、JDSキルギスの帰国留学生Supanaliev Bekjan (スパナリエフ・ベクジャン)氏が、キルギス共和国教育・科学省の副大臣に任命されました。スパナリエフ氏はJDSキルギス6期生として2012年来日し、2014年に明治大学ガバナンス研究科を修了しました。JDS留学時、首相府・地域開発監視局の副部長を勤めていた同氏は、帰国後、首相府に戻り、同首相府の社会開発局部長、キルギス共和国地域開発投資庁長官、グリーンファイナンスセンター代表を経て、今般、教育・科学副大臣に就任しました。現在は、国際援助団体によるデジタル変革、投資誘致、教育分野におけるプロジェクト実施において、教育・科学省が担当する活動の調整などを担っています。

スパナリエフ氏への、インタビューの機会を得ました

—— 日本留学の思い出は何ですか？

日本留学の思い出は、貴重で忘れがたいものばかりです！
留学生活は実り多く豊かなもので、素晴らしい教授陣による講義を受けることができただけでなく、多国籍の留学生と交流する機会もありました。日本留学で得たあらゆるものを多面的かつ客観的に捉え論理的に分析してから行動する「クリティカルシンキング」の考え方は、現在の業務においても非常に役立っています。



—— 帰国後も日本との繋がりはありますか？

帰国後も明治大学の先生たちと連絡を取ったり、キルギスを訪問する日本人と積極的に交流の機会を持ったり等、日本との関係づくりに努めています。また、JICA同窓会の理事を3年間務め、第1回JDSキルギス同窓会フォーラムの発起人、及び主催者の一人となりました。

留学当時小学生だった息子は、学校で日本語や日本文化に触れたことが彼の人生にとって大きな刺激となり、帰国後も日本語の勉強を続け、現在日本の大学に留学しています。自分だけでなく家族が日本を懐かしく思う気持ちは、帰国後、更に強くなっています。



スパナリエフ氏が日本留学で学んだ知識を活かし、新たなリーダーとしてキルギスの発展に寄与することが期待されています。

JDSモンゴル 帰国留学生が、最高裁判所裁判官に就任しました

2022年7月、Nyamdoo Bayarmaa氏(ニヤムドゥー・バヤルマー /九州大学大学院法学府/2012年修了)が、最高裁判所裁判官に就任しました。



司法研修・研究・情報研究所主催のイベントでの講演

同氏は、2012年秋よりJDSを通じて九州大学で修士号を取得後、モンゴル国法務内務省の勤務を経て、裁判官となりました。また、2018年に、名古屋大学のAsian Satellite Campuses Institute (ASCI)の奨学金を得て再来日し、同学にて博士号を取得した後、2022年7月に最高裁場所裁判官に就任しました。

同氏にお話を伺ったところ、「過去には弁護士として勤務した経験もあり、JDS留学を含むこれらの経験が現在の仕事にとっても役に立っています」とのことでした。また、今でも同じ分野で活躍している他国の同窓生たちと情報交換を行うなど、現職においても日本で培ったネットワークを活かし活躍しています。

セネガルから第1期生5名が来日しました

8月27日にセネガルから修士留学生5名が来日しました。セネガルでは、2021年度にJDS事業の導入を検討するための協力準備調査が行われた結果、2022年度よりJDS事業が開始されました。厳しい選考を経たのちの初めての来日となるため、留学生5名に対するセネガル政府関係者の期待は大きく、現地では来日前に盛大な壮行会が行われました。



また、8月29日には早速、特命全権大使 Jean Antoine Diouf閣下への表敬の機会を得て、歓迎と激励のお言葉を頂きました。同日に実施されたJDS来日歓迎レセプションには、5名の来日を祝福するために、駐日セネガル共和国大使館よりMansor Ciss参事官とAlé Fatim Ndiaye書記官が列席されました。5名の留学中、そして帰国後の活躍が期待されます。

来日歓迎レセプション



今回はJDSバン格拉デシュ事務所でカントリーオフィサーとして働くJICE職員に、知る人ぞ知る超甘党大国バン格拉デシュのおやつをご紹介します！

ラスグッラ



バン格拉デシュは「超」がつく甘党の国です。当国のミスティ(スイーツ)は日本のものより格段に甘く、美味しいスイーツが一杯で毎日誘惑に打ち克つのも一苦勞。その中でも、世界で最も甘いと言われる「グラブ・ジャムン(濃縮乳、小麦粉、砂糖水を丸めて揚げた後、砂糖水に漬けたもの)」と並び人気を誇るのが、スイーツの王様とも呼ばれる「ラスグッラ」。カッターチーズと小麦粉を丸め、スパイスや香料を効かせた甘いシロップで煮たもので、噛んだ瞬間蜜がじゅわっと出て、一瞬で甘いものへの欲求が満たされます。お酒が飲めないイスラム教国バン格拉デシュでは、「酒で祝う」という言葉の代わりに「ミスティで祝う」という表現があるとも聞きます。街中にはラスグッラをはじめ、様々なミスティを取り扱うスイーツ店が数多くあります。バン格拉デシュにお越しの際、一度は試して頂きたいです。



バクルカニ

旧市街、オールドダッカの名物お菓子で、朝ごはんやおやつとして食べられています。円形の窯のへりに張り付けて焼きます。意外と甘さ控えめでスコーンのような食感。冷めても美味しいのですが、やはり外がサクッ、中がしっとりの焼きたてが最高に美味しいです。腹持ちも良いので、観光で歩き疲れた時にぴったりのおやつです！歴史を感じるオールドダッカの観光を楽しみながら、是非食べてみてください。



(JDSバン格拉デシュ 海外業務担当 三木良子)

JDS 3つの特徴

- 1 **行政官限定事業**
※一部例外がございます
- 2 **6,030名 22カ国の実績**
※事業終了国の人数も含む ※2023年度までの人数
- 3 **大臣・局長級を輩出**

対応国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、バン格拉デシュ、ミャンマー、フィリピン、キルギス、タジキスタン、スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、モルディブ、ケニア、セネガル

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、日本との政策対話に携わり二国間強化に寄与する等、様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による JICA留学生受入支援事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

キルギスのスパナリエフ氏のように、JDS留学の際に帯同したお子さんが、10年後に日本留学するケースが増えています。お子さんたちは、お父さん、お母さん以上に学校や地域の活動に溶け込み、日本の生活を楽しんだケースもよく耳にします。

留学生自身だけでなく、家族も日本ファンになって、再来日をする話を聞くと心が暖かくなります。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部留学生事業課広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org